

JR東海労なごや

2020年 8月7日No.1172
JR東海 労名古屋地方本部
発行者：荻野隆一
編集者：教宣部

携帯アプリBuddycom使用にメリットはあるのか！

最近、在来線運輸区職場では、異常時(置き石・動物衝撃等)に指令とのやりとりが従来使用していた列車無線ではなく、携帯アプリBuddycomを使用するように指令から指示されています。このことにより多くの問題点が発生し現場の乗務員から不満が噴出しています。以下に問題点を挙げますので皆さん共に声を挙げましょう。

動物衝撃箇所は山間部が多く通信状況が悪く使用できない！

動物衝撃時に運転士は列車無線で指令に報告します。指令は以後、Buddycomを介してやりとりするように運転士に指示をします。しかし、山間部での衝撃が多いため通信状況が悪く使用できないことが多々あり余計な作業(イヤホン挿入等)で列車の遅れが増えています。

列車遅延が増大し、お客様・踏切通行人に迷惑をかけている！

Buddycom使用に手間取り停車時間が増大することにより踏切が絡んでいる箇所では踏切故障が発生し更に列車が遅れ、お客様に迷惑を掛けています。また、踏切通行人にも迷惑をかけています。

Buddycomは複数人が同時に交信。誰が使用してるの？

Buddycomは複数人が同時に交信できるのが利点とされています。しかし、動物衝撃時、該当者は運転士・運用指令・輸送指令の3者しかいません。4者目の動物は「線路外に転がっているので大丈夫」とか「線路内にいるので運転に支障あります」とかは教えてくれません。従来の列車無線使用と何ら利点が見えません。

乗務員の手は2本しかない！

指令から車両点検時にBuddycom使用が指示されます。動物衝撃は夜間が殆どです。降雨時もあります。傘をさし、懐中電灯を持ち車両点検チェック表を持ち、どのように携帯電話を操作するのでしょうか？手が足りません。やることを増やす場合は精査し何かを省略しなければ実態にそぐわない扱いになってしまいます。

労働災害の引き金になりかねない取扱いはやめること！

駅間での車両点検は、足場も悪く歩行するだけでも容易ではありません。車両が無ければ歩行もしやすいでしょうが車両側面はバラストが高く積まれ、ずり落ちそうになりながら草まるけになり車両点検を余儀なくされています。殆どの乗務員は経験していると思います。Buddycom使用に気をとられ転倒・転落等の労災発生はあってはなりません。

東海労は労働環境改善を求めます！！